

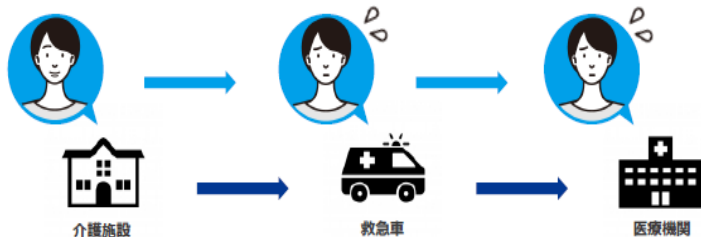
提案企業 ドクターメイト株式会社（東京都）

テーマ 介護施設における夜間の効率的なオンコール対応及び新たな救急搬送モデルの構築

実施目的 介護現場で大きな負担となっている夜間帯の救急搬送対応に対し、全国の医療リソースをシェアリングすることで、介護施設からの軽症患者の搬送を減らすと同時に、夜勤スタッフの救急搬送時の同伴を不要にするなど介護施設の負担軽減を実現する。

<従来の方法>

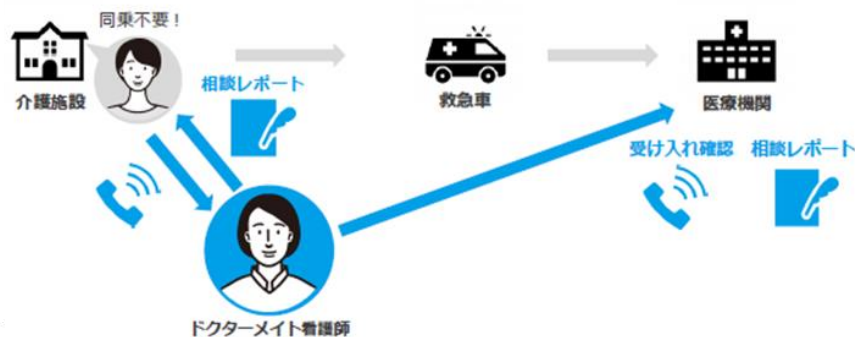
介護施設職員による夜間オンコール対応
（介護スタッフが救急車に同乗し、救急隊や病院に患者の容体を説明）



- ・容体急変時の対応や救急隊や病院との医療的コミュニケーションへの不安。
- ・他の入居者へのケアが手薄になるため、抜けたスタッフの補充調整が必要。

<今回の実証で実現したいこと>

勝山市の介護施設からの夜間医療相談に対応する看護師・医師チームを組成。夜間オンコール対応を代行することにより、介護現場の業務負担軽減の効果を検証。



- ・介護職員の同乗を不要とする夜間救急搬送モデルの構築
- ・軽症例の救急搬送「とりあえず搬送」の低減
- ・消防や病院との効率的な情報共有・事前アセスによる、救急搬送の時間短縮

連携先 勝山市消防本部、福井勝山総合病院、介護福祉施設

提案企業 ドクターメイト株式会社（東京都）**テーマ** 介護施設における夜間の効率的なオンコール対応及び新たな救急搬送モデルの構築**Q.** CO-FUKUIに応募したきっかけを教えてください。

本事業の事務局であるデロイトトーマツ様よりご紹介を頂き、本事業を知りました。

当社は募集用HPに掲載されていた募集テーマと少しずれがあるのではと思い、申し込みを躊躇していましたが、今回協働させて頂いた勝山総合病院様の記事に弊社事業テーマの課題感が記載されているのを見つけ、応募をさせて頂きました。

Q. CO-FUKUIで実証実験を行ってよかった点を教えてください。

多様な関係者のご紹介と調整のご支援を、スピーディに行っていただけたことが非常に良く、自治体連携を検討している他の事業者様にもお勧めしたいプロジェクトです。

本実証実験は、介護施設様や消防本部様、病院様など、多様な関係者様にご理解、ご協力を頂く必要がありましたが、県庁様に間に入って頂き、スムーズに調整ができました。

Q. 本事業で何を実証したのか教えてください。また、その結果もあわせて教えてください。

「医療者がいない夜間、入居者の急変時の医療判断や対応する負担」、及び「夜間救急搬送時に、病院へ帯同することに対する負担」の軽減のため、病院、消防本部、介護施設、自治体の連携による緊急搬送モデル構築に取り組みました。

成果としては、上記関係者で連携する日本初のモデルの実証ができたことに加え、介護施設職員への実施後調査から、介護スタッフの負担軽減の効果が確認できたことです。また、上記の結果が確認できたことで、実証実験後も介護施設様への継続的なサービス導入に繋がりました。

Q. 今後、実証実験を行った事業をどのように展開していくのか教えてください。

まず、本事業で実証を行った勝山市の関係者様には、継続してサービスを提供してまいります。

またありがたいことに、福井県内の他の自治体や介護施設様からのお問い合わせを頂いておりますため、今後は県内の様々な関係者様と共に、本モデルの横展開を進め、福井県の介護現場の負担軽減に寄与していきたいと考えております。

関係者のコメント

特別養護老人
ホームさくら荘
副施設長 谷口肇 様

トリアージが適正なので、オンコールをドクターメイトに任せて不安はない。導入することはスタッフの負担が減らせるメリットは大きい。

「ナース1名+ドクター1名」を雇うことを考えると、費用も高くなく、職員の離職防止や雇用に対しての効果もあると感じています！

消防にはレポートを見せるだけ、病院も事前にレポートを見ているので消防=病院間のやりとりもスムーズなので、スムーズな対応で利用者への対応品質も上がったと思っています。

今後のサービス継続を強く希望します。

メディア掲載情報

- ・12月28日(火) 中日新聞WEB版
- ・1月27日(木) 福井新聞 朝刊
- ・1月31日(月) 東京都中小企業振興公社 等